

## 平成 27 年度 FD 活動のまとめ

総合企画室 FD 活動ワーキンググループ

### はじめに

平成 26 年度より総合企画室内に FD 活動ワーキンググループが設置され、「教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取り組み」を目指して、FD 研修会を企画してきた。初年度となる平成 26 年度は、「教育力・教師力の向上」をテーマとし、研修会を行い、そのアンケートから、「役立つ情報が得られた」、「スキルアップにつながった」、「他の参加者との交流・情報交換が図られた」等、各教職員から、極めて肯定的な意見が聞かれ、教育活動に極めて有益なものであることが明らかとなった。2 年目となる平成 27 年度は、「高専教育の国際化」をテーマとして、2 回の FD 講演会を行った。そのまとめを報告する。

### 第 1 回 FD 講演会

5 日間続いた前期末試験の最終日の 8 月 4 日 (火) に、本校メディアホールにおいて、13:30~15:00 に開催した。教員 37 名 (61 名中)、職員 9 名が参加した。講師として熊本高等専門学校制御情報システム工学科准教授 嶋田泰幸先生をお迎えし、「熊本高専における国際化教育の取り組み」を演題としてご講演をいただいた。

講演では、グローバル人材像、社会人基礎力からはじまり、熊本高専が育成する人材像について述べられました。これまでに実施し、現在行いつつある国際化教育の実施例を数多くご紹介いただきました。出席した教職員は、高専教育の国際化に関して、多くのヒントを得ることができた。



## 第2回FD講演会

平成27年の最後の登校日である12月24日(木)に、本校メディアホールにおいて、13:30~15:00に開催した。32名、職員5名が参加した。講師として山口大学理工学研究科教授 江 鐘偉先生をお迎えし、「ものづくり創成工学デザイン教育の実践と国際化」を演題としてご講演をいただいた。

講演では、山口大学機械工学科の学部生および大学院生における、ものづくり教育のカリキュラムのなかでの国際化について述べられました。なかでも、日中韓の混成チームワークをベースとするイノベーションデザイン人材育成のための集中強化教育プログラムである、**Summer Program for Innovative Engineering Design (SPIED)**等に重点をおいて説明していただきました。大学におけるこのような教育の国際化について知る機会は少なく、高専教育の国際化に関しても多くの示唆を得ることができた。



## まとめ

2回のFD研修会は、各教職員が「高専教育の国際化」を意識し、考えるうえで、十分な内容を備えるものであった。研修会についてのアンケートでは、講演会の内容が適切であったかという問いには、56名の回答中、21名が満足、28名がやや満足と答えており、88%の教職員が肯定的な回答をしている。平成27年度の講演会の満足度が高かったことがわかる。また、これからの教育活動に役立つかという問いには、10名が大いに役立ちそうだ、35名が役立ちそうだと答えており、88%の教職員が今後の活動に講演会の内容を生かしていこうとする教員が多いことがわかった。これからの活動に役立ちそうな点に関しては、以下のような以下意見が寄せられた。

- ・学生の英語力強化方法
- ・低予算のなかでの活動方法
- ・モチベーションを上げる仕組み
- ・現有施設・設備での取り組み
- ・留学生との交流部屋（英語環境）の整備
- ・教職員への支援も必要であること
- ・本校での教育にも取り入れることが可能なプログラムを知ることができた。
- ・学科をまたいでカリキュラムを組む工夫
- ・SPIED と呼ばれるイベントの情報をしることができた。
- ・学生のモチベーションを上げるための工夫。
- ・大学での国際化の取り組みが分かった。
- ・東アジアにおける活動がわかった。
- ・「メカトロ組み込みシステム教育コース」は、一つの教育のあり方として参考になった。
- ・文系の学生と理系の学生が共に研究する取り組みと工夫。

以上のように、平成 27 年度の FD 研修会は、当初目指した「高専教育の国際化」に関する知識や本校教職員の認識の向上に著しく役立つものであると結論される。今後は、得られた知見をもとに、各教職員が「高専の国際化」について考察を加え、具体的な行動を始めることが求められる。